

日吉大社 御中

ご提案書

樹木保存・整備計画

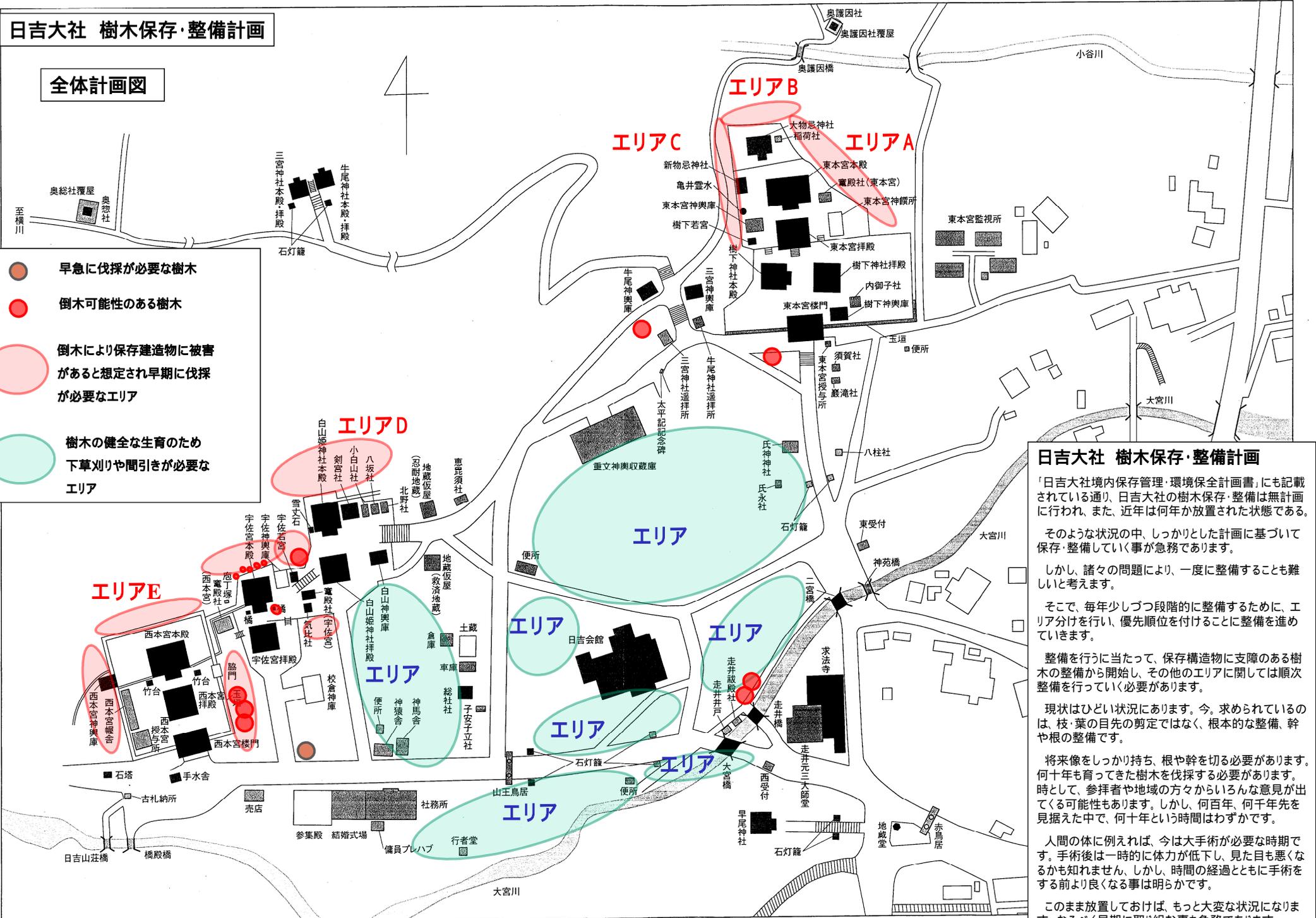


平成22年10月
株式会社 植 杣

日吉大社 樹木保存・整備計画

全体計画図

- 早急に伐採が必要な樹木
- 倒木可能性のある樹木
- 倒木により保存建造物に被害があると想定され早期に伐採が必要なエリア
- 樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア



日吉大社 樹木保存・整備計画

「日吉大社境内保存管理・環境保全計画書」にも記載されている通り、日吉大社の樹木保存・整備は無計画に行われ、また、近年は何年か放置された状態である。

そのような状況の中、しっかりとした計画に基づいて保存・整備していく事が急務であります。

しかし、諸々の問題により、一度に整備することも難しいと考えます。

そこで、毎年少しずつ段階的に整備するために、エリア分けを行い、優先順位を付けることに整備を進めていきます。

整備を行うに当たって、保存構造物に支障のある樹木の整備から開始し、その他のエリアに関しては順次整備を行っていく必要があります。

現状はひどい状況にあります。今、求められているのは、枝・葉の目先の剪定ではなく、根本的な整備、幹や根の整備です。

将来像をしっかりと持ち、根や幹を切る必要があります。何十年も育ててきた樹木を伐採する必要があります。時として、参拝者や地域の方々からいるんな意見が出てくる可能性もあります。しかし、何百年、何千年先を見据えた中で、何十年という時間はわずかです。

人間の体に例えれば、今は大手術が必要な時期です。手術後は一時的に体力が低下し、見た目も悪くなるかも知れませんが、しかし、時間の経過とともに手術をする前より良くなる事は明らかです。

このまま放置しておけば、もっと大変な状況になります。なるべく早期に取り組む事も急務であります。

日吉大社 樹木保存・整備計画

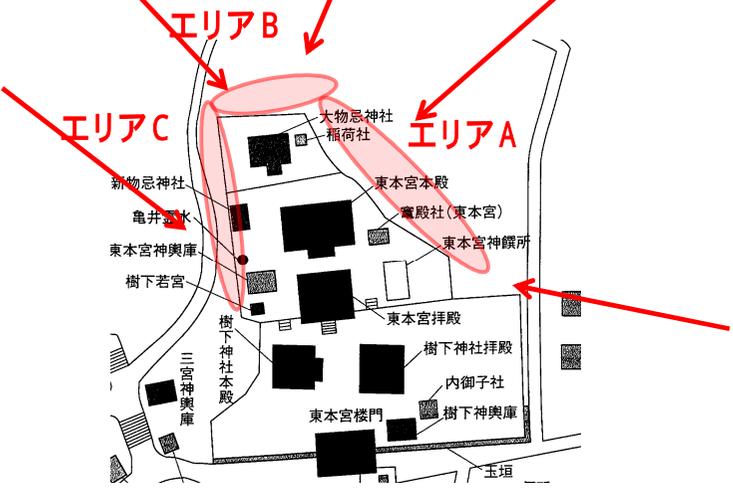
歴史的建造物の周囲に生い茂る樹木、倒木等により構築物への被害がある。



歴史的建造物の周囲に生い茂る樹木、倒木等により構築物への被害がある。



歴史的建造物の周囲に生い茂る樹木、急斜面のため、土砂崩壊による倒木も考えられる。



倒木により保存建造物に被害があると想定され早期に伐採が必要なエリア

エリアA

石積み倒壊により、樹木が倒れ、保存建造物に被害を及ぼす可能性が高いため、早期に伐採する必要があります。伐採の範囲として、倒木しても保存建築物に影響がない範囲まで伐採する必要があります。

また、伐採後の土砂流失防止策として小さな樹木は残し、モミジ等樹高が大きならない樹木の植樹を行い、土砂流失を抑える。将来的にモニジ等が根が張った後に、残した小さな樹木の伐採を行う。

エリアB

湧水による土砂崩壊の可能性も考えられる。そのため、このエリアも杉の若木を残し、2/3以上の杉の伐採を行う。そのうえで、モミジ等の樹高が大きならない樹木の植樹を行い、根が張り、土砂崩壊の危険性がなくなった時点で、残りの杉を伐採する。

エリアC

エリアBと同じように若干の杉を残し、モミジ等の植栽を行い、土砂流失の心配がなくなった時点で残りの杉も伐採を行う。

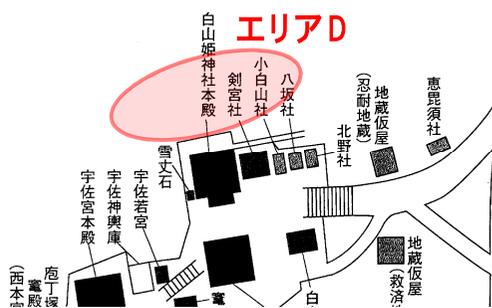


倒壊する可能性のある石積みの上に生える杉・檜。倒木により、国宝および重要文化財の構築物への被害があります。

日吉大社 樹木保存・整備計画



歴史的建造物の周囲に生い茂る樹木。
急斜面のため、土砂崩壊による倒木も考えられる。



倒木により保存建造物に被害があると想定され早期に伐採が必要なエリア

エリアD

地形上、湧水による土砂崩れの可能性も考えられる。そのため、このエリアも杉の若木を残し、2/3以上の杉の伐採を行う。そのうえで、モミジ等の樹高が大きならない樹木の植樹を行い、根が張り、土砂崩れの危険性がなくなった時点で、残りの杉を伐採する。

また、モミジ等を早期に成長させる必要があるため、少しでも日照が得られるように間引きも行う。

日吉大社 樹木保存・整備計画

樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア

コンセプト

鎮守の森、神々の森、自然と人間の共存。そこには適度に整備された自然があります。自然は放置しておけば人間を受け入れなくなります。かつて、人々は里山という自然と人間が共生できる自然空間で生活していました。里山の奥には神々が宿る森があり、そこへは人間は立ち入る事ができず、自然界の循環が繰り返されました。自然を自然に任せておけば人間が寄り付かなくなります。自然を自然らしく人間が管理していく必要があります。いま、日吉の森は自然に任せた自然になりつつあります。大きな処置をしなくてはならない時期にきています。10年後、50年後、100年後を見据えた樹木の保存・整備。

抜本的な整備に取り組みます。そのために、今現在としては少し病むかもしれませんが将来へ向けての養生期間であると考えする必要があります。

基本方針

モミジの名所として知られる日吉大社。モミジの計画的な維持も必要です。しかし、現況としては放置された杉・檜等の針葉樹の成長によって日照が遮られ、モミジの生育に支障をきたしています。

杉・檜の思い切った間引きにより、日射を確保し、モミジと杉・檜が共存できる環境を整備する事が急務です。

現在、モミジの美しい所は杉・檜で覆われてないところ。杉・檜および下草を刈り採りモミジの植樹をしていく事を基本方針として日吉大社の樹木保存整備を進めていきます。

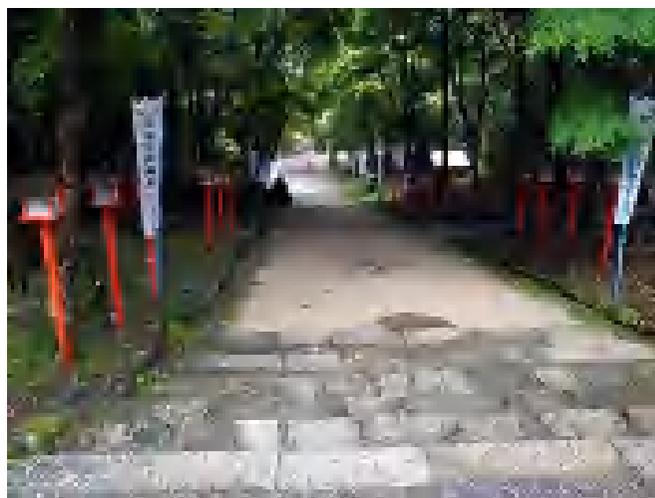


杉・檜が適度に間引かれ、日射が入る事により明るく整備された部分。
モミジも成長しています。

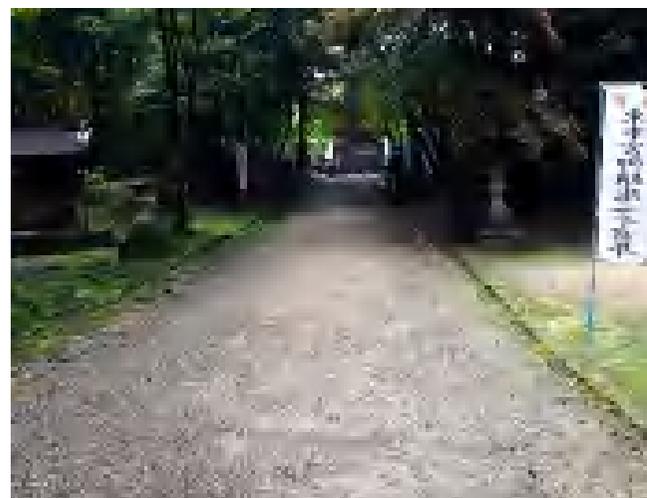


モミジが美しく紅葉している箇所。上空には杉・檜がなく、モミジが太陽の光をいっぱいもらって成長しています。

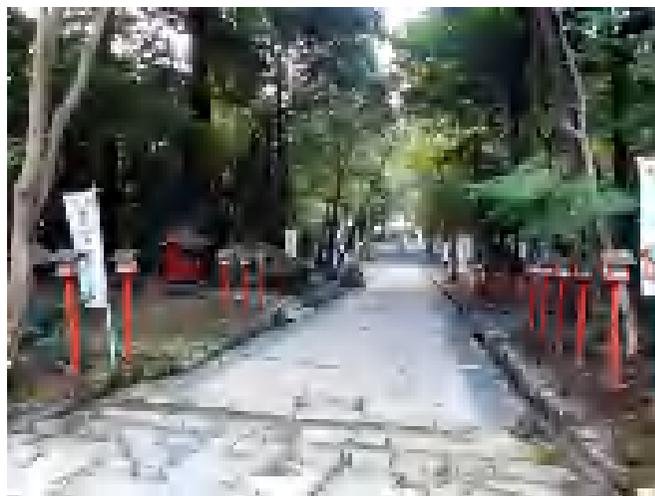
日吉大社 樹木保存・整備計画



作業前



作業前



作業後



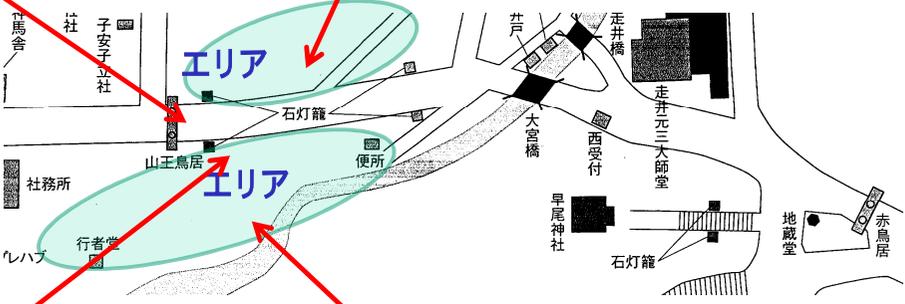
作業後

東本宮参道整備に当たり、試験的に大規模な樹木の伐採・間引きを行いました。結果として、明るくなり、今まで見えなかった楼門がしっかり見えるようになりました。

日吉大社 樹木保存・整備計画

エリア エリア

杉・檜が参道を覆い奥が見えない状況



樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア

赤鳥居、大宮橋を渡り、参拝者が通るメイン通路。現在、西受付から境内をみると参道左右に生い茂った木々があるため、参道の奥に何があるのかわからない状況のため、西受付にて引き返されている観光客もあると考えられる。

木々の隙間から日吉大社の奥深さを演出するため、参道左右の樹木を間引き、必要によっては杉・檜の伐採を行い、参道がモミジ並木となるように計画的にモミジ等の植栽を行います。

日吉大社 樹木保存・整備計画

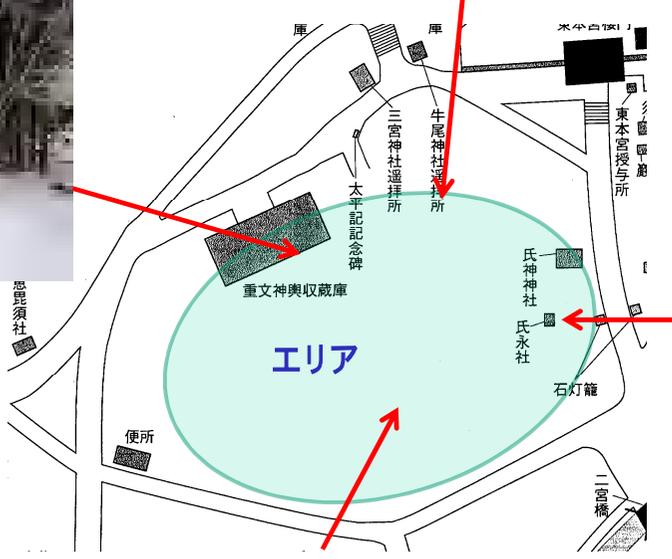
エリア



無造作に植林された林
 今は樹高が低く特に問題はないが、将来的に成長すると伐採も出来ない状況になるため間引き伐採を行う必要がある。
 昭和30年頃より杉・檜の植林がおこなわれ、現状は杉・檜林となっているがもともとは広葉樹を中心とした雑木林であったと考えられる。
 そのため、杉・檜は必要最小限を残し、モミジ・日吉桜等を中心に雑木林へと変えていく必要がある。



無造作に植林された林
 樹木が密生し奥が見えない状況。間引き伐採することにより、林に日射が入り込み、奥行き深い景観となる事で、東受付よりの参拝者、観光客を奥へ誘導できる。



樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア

何年も放置されたエリア
 杉・檜が無造作に生え、年々巨木化していく。広い面積であるにも関わらず何も活用されていない(できない)エリアであるが、杉・檜の思い切った間引きにより林に日射が入り、遊歩道や休養施設などの施設整備。モミジ林や日吉桜を植樹することにより、春はお花見、秋は紅葉。樹木の下でお弁当を食べたり、子どもたちの遊び場になったり、地域の人々の交流の場になったり様々なコミュニティを持てる空間へと活用できます。

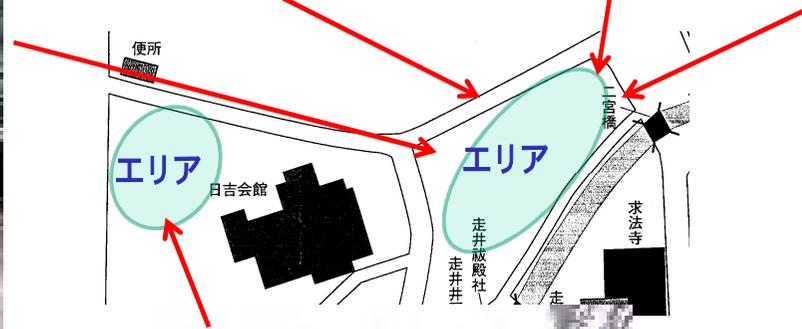
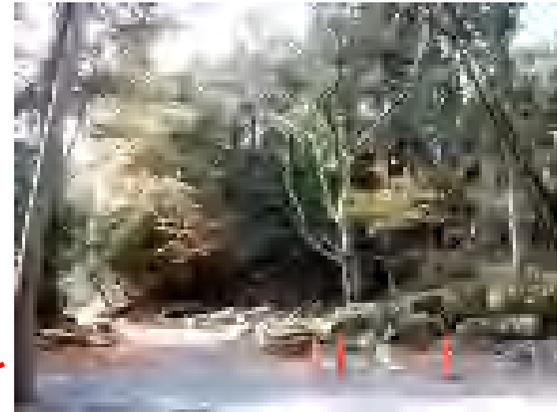
日吉大社 樹木保存・整備計画

エリア

エリア



杉・檜が無造作に植林され奥が見えない状況



杉・檜が無造作に植林され奥が見えない状況

樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア

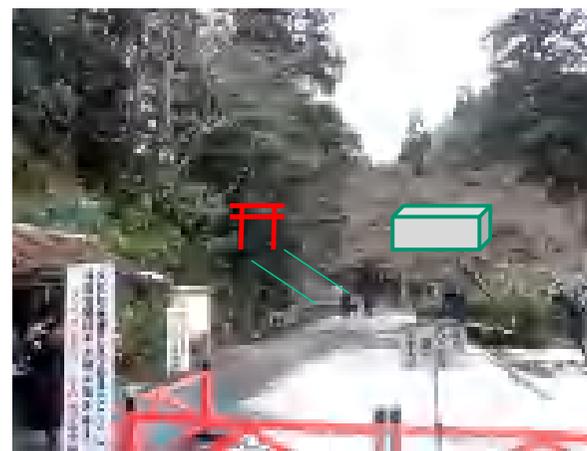
何年か放置されたエリア

杉・檜が無造作に生え、年々巨木化していく。日吉会館という建造物がまったく見えない状況。間伐、下草刈りを行うことにより、木々の間から日吉会館が見えることにより、史跡価値を向上します。また、計画的にモミジ等の植栽を行います。

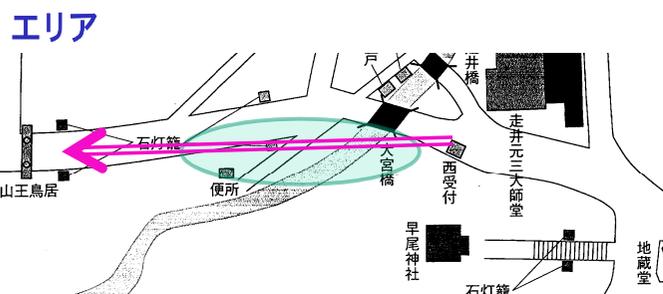
日吉大社 樹木保存・整備計画



現況では大宮橋を渡ってはじめて山王鳥居が見える。



西受付より山王鳥居、参道、日吉会館等の構築物が見えることによって参拝者の増加が期待できる。



エリア

西受付より山王鳥居および参道が見える事により参拝者の増加が期待される。

樹木の健全な生育のため下草刈りや間引きが必要なエリア

日吉大社の玄関口である西受付。

西受付より境内を見た時、歴史的構築物等がまったく見えず、初めて訪れる観光客にとっては拝観協賛金を納めて参拝するか悩むところであると考えられる。

西受付より西本宮への参道、山王鳥居が見えるように樹木を管理することにより、参拝者の本宮への誘導効果が期待できる。